



宗像の森林が危ない

市民活動団体が結束して「竹林サミット」を開催

竹林が広がっているのに 気付いていませんか？

これは、竹の資材としての利用低下や安価な輸入タケノコの需要増などによって、手入れされない竹林が多くなったことが原因です。手入れされない竹林は1年間で2メートル広がるというわれています。竹は隣接した森林に侵入すると、わずか2カ月で15メートル前後にも成長し、厚い葉群で木に当る日光を遮って枯らしてしまいます。

また、竹林は隣接した利用されていない田畑にもどんどん広がります。こうして竹林が拡大していくことで、もともと森林や田畑だった場所が竹林へと変わっていくのです。

問い合わせ先 農業振興課 ☎(36)0041



人が入れないほど竹がはびこった竹林

管理されない竹林の拡大は、森林の保水力低下や地滑りの危険性、生態系の単純化なども問題視され、森林を所有しない人にも関係ない問題では

団体が市内外にあり、福岡県竹林サミット実行委員会として今年10月2日(土)、市で里山や竹林の保全、竹の利活用の推進を目的に「第4回福岡県竹林サミットIN宗像」を開催します。

参加団体の活動を ちよつと紹介

NPO法人 宗像里山の会 中里亜夫(つぐお) 代表 (66歳・南郷)

竹の侵入で荒廃した釣川流域の里山環境を取り戻すため、平成17年から竹を伐採し、伐採した林地へ広葉樹などを植樹する活動を始めました。



今年3月の植樹祭

白山城址を守る会 安松亮一(あきと) 会長 (66歳・河東)

白山城は、1189年に築城され、380年もの間、宗像家の居城として栄えました。この歴史と城址を後世に継承していくため、歴史講演会や白山祭の開催、登山者の憩いの場づくりに取り組んでいます。



山田地蔵尊での歴史講演会

ごみ問題を考える住民の連合会・宗像 倉本和子(あきこ) 代表 (67歳・河東)

家庭ごみの40パーセントを占める生ごみを減量し堆肥(たいひ)化する

ため、ダンボールを使った生ごみコンポストに取り組んでいます。ここ数年はコミュニティ・センターを中心に講座を開催し、多くのみなさんに取り組んでもらっています。

ダンボールコンポストには、もみ殻くん炭と輸入品のピートモスを使用しています。より環境を考えた、2つの基材の代わりに竹パウダーを使った実験をしています。



竹パウダーを使った生ごみ堆肥化

玄海まちづくり研究会 花田昭昭(あきあき) 会長 (60歳・東郷)

昭和61年から、美しい自然と長い歴史にはぐくまれた玄海地域をさらに住みよく、着実に発展していくまちづくりを研究し、さつき松原で子どもたちと植樹活動などを実施してきました。



会で作った釜での竹炭づくり

NPO法人 バンブーワールド 林田和正(かずまさ) 代表 (58歳・福津市)

荒廃した竹林を整備することから始まる循環型リサイクル社会の構築を目指して取り組んでいます。



竹パルプ100%の紙バック、ノートなど

宗像市森林組合 中村芳博(よしひろ) 代表理事 組合長 (74歳・南郷)

市内の森林が健全に保全されるよう、間伐などの森林の手入れや県森林

環境税を活用した荒廃森林再生事業を請け負っています。森林を所有していない市民のみなさんへ森林に関心を持ってもらえる取り組みを実施し、平成19年から区画割りした竹林の所有者になって楽しんでもらう「竹林オーナー事業」を実施しています。



平成20年度に実施した竹林整備研修会

夢灯籠まつり 実行委員会 梅田芳徳(よしとく) 実行委員長 (55歳・赤間)

赤間地区を活性化させ、来場者に夢と感動を届けるため、竹灯籠(とうろう)で幻想的な空間をつくりだす「夢灯籠まつり」を平成20年度から開催しています。



竹パウダーをブルーベリーの苗木に使用した実験



昨年の夢灯籠まつり

有機農業研究会 福島光志(みつし) 会長 (24歳・南郷)

安全で高品質な農産物の生産を目指し、化学合成農薬や化学肥料の使用を可能な限り減らした農法を研究・実践しています。

竹パウダーをイチゴ栽培に使用すると病気になるにくく、糖度が上がるといわれています。今年度、水稲、野菜、果樹と多様な農作物に竹パウダーを使用する実証実験に取り組んでいます。

竹林サミットに関する問い合わせ先 NPO法人宗像里山の会(長尾) ☎(36)8317